

令和5年度

運営に関する計画
(最終反省)

大阪市立加賀屋中学校
令和6年2月13日

目 次 P. 1

1 総括シート

- 学校運営の中期目標 P. 2・3
- 中期目標の達成に向けた年度目標 P. 3・4
- 本年度の自己評価結果の総括 P. 5～9

2 目標別シート

- 生活指導部 P. 9～11
- 健康教育部 P. 11・12
- 特別支援教育推進委員会 P. 13
- 特活・キャリア教育委員会 P. 14・15
- 道徳・人権委員会 P. 15
- 第1学年 P. 16
- 第2学年 P. 17
- 第3学年 P. 18
- 国語科 P. 19
- 社会科 P. 19・20
- 数学科 P. 20・21
- 理科 P. 21・22
- 音楽科 P. 22
- 美術科 P. 23・24
- 保健体育科 P. 24・25
- 技術・家庭科 P. 25
- 英語科 P. 26・27

評価基準

- A:目標を上回って達成した
- B:目標どおりに達成した
- C:取り組んだが目標を達成できなかった
- D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 基本的生活習慣の確立と生活指導の充実を図る取組を実施し、遅刻者数の減少や学習規律の改善がみられるとともに、自らあいさつする生徒が増えている。そのため、落ち着いた学校環境の中で授業や学校生活を送れるようになってきている。しかし、一部生徒の遅刻の固定化や人間関係の不安による不登校生徒の増加が見られる点が課題として取り上げられる。
- 学習面において、教員の教材作成の工夫、授業力向上を図る研究授業の実施やICT機器を活用した授業改善を通して生徒が授業に興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができ、主体的・対話的に学ぶことができるよう取り組んできた。学力調査の結果から経年で比較すると各教科で前年度を上回る結果となっている教科が多いが、平均正答率で全国や大阪府・市の平均を下回る結果となっている面が見られる、そのため、基礎・基本の徹底を図ることが課題としてあげられる。
- 健康、体力の保持増進を図るため、保健体育の授業の導入で俊敏性や柔軟性を高める運動に取り組んできた。昨年度は全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点が男女とも、全国平均を下回ったが、体育大会をはじめ球技大会やマラソン大会を実施し、様々なスポーツに触れる機会を増やし運動が苦手な生徒も興味・関心を持って取り組めるように工夫してきた。しかし、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「運動が好き」「運動やスポーツは大切ですか」の項目において、全国平均を大きく下回っており運動に対する意識の低さが課題としてあげられる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の保護者アンケートにおける学校の教育目標「(人権教育を基盤とし、生徒一人ひとりを大切にする教育実践を通して、互いに認め合い、自己実現のための学ぶ力を育む教育を推進する)」について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と肯定的に答える保護者の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内調査の「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を71%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率3割以下の生徒を、令和3年度より5ポイント減少させる。

- 令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を45%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を55%以上にする。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和7年度調査において、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。
- 令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を76.5%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より3ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 令和5年度末の保護者アンケートにおける学校の教育目標「(人権教育を基盤とし、生徒一人ひとりを大切にする教育実践を通して、互いに認め合い、自己実現のための学ぶ力を育む教育を推進する)」について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と肯定的に答える保護者の割合を75%以上にする。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を80%以上にする。
- 令和5年度の校内調査の「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和5年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和5年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。
- 中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を50%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和5年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率3割以下の生徒を、令和3年度より1ポイント減少させる。
- 令和5年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。
- 令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を、前年度以上にする。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和5年度調査において、70%以上にする。について

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 令和5年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和5年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和5年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より1ポイント増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- いじめに対する意識は、調査で見る限り高くなっている。目標の85%にはあと2.3%届いていないが、日々の教育活動において十分な指導と対応ができている。
- 不登校生徒は年々増加傾向にあり、その原因も判然としないことが多くなっている。昨年度の4.48に比べ、不登校生の在籍比率は10.5となり増えているものの、別室登校やサテライトなど個々に合わせて改善がみられるようになっている。ひとえに教職員が協力し個に応じた指導を行っている成果であるといえる。

学校園の年度目標

- 学校の教育目標「(人権教育を基盤とし、生徒一人ひとりを大切にする教育実践を通して、互いに認め合い、自己実現のための学ぶ力を育む教育を推進する)」を達成するためにいじめに対する啓発や人権学習を行ってきた。全国学力・学習状況調査の「いじめはどんなことがあってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合は93.6%となり、目標の80%を上回った。行内調査での目標にはまだ達していないので、継続して取り組みを続けていく。

- 「学校の規則を守っていますか」に対しては肯定的回答が1学期末調査で96%、2学期末調査で97.7%と非常に高かった。日々の指導が生きており、落ち着いた雰囲気で学校生活が送られている。

進路については令和5年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や希望を持っていますか」の項目において令和5年度の調査で60%と、前年度の62.5%を2.5%下回った。今年度から職場体験を復活させたが、職業講話や進路学習などの取り組みを今後も生かしていきたい。

- 「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合は1学期末調査で96.7%、2学期末調査で94.8%だった。昨年度は96.0%なので2学期末の段階で少し目標を下回ってしまった。各学年に1人中国からの編入生が来ているが、上手にコミュニケーションをとり、子どもたちがいっしょに頑張っている姿を目にすることができる。それぞれを大切にする土壌は十分にできあがっていると思われる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- コロナが5類となり、話し合う活動も復活しつつある。「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は1学期末調査で47%、2学期末調査で48.2%と目標の40%を上回った。

- 中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比は3年生で国語・数学ともに2年間で上昇、しかも府平均を超える結果となった。

- 令和5年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル(大阪市基準 トータル440点以上)相当以上の英語力を有する生徒の割合は令和5年度で45.4%であった。昨年度の31.5%に比べると大幅にアップしており目標の40%以上に到達している。C-NETの活用も含めこれまでの取り組みを継続していく。

- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目に

について、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合は1学期末の調査で55%2学期末の調査で52.5%と目標の50%を上回った。それぞれの過ごし方はあるが、昼休みに元気に遊ぶ姿は毎日のように見られる。特に、ダンス発表会に向けて、子どもたちが自主的に創作、練習する姿は大切にしていきたい。

学校園の年度目標

- 令和5年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率3割以下の生徒は、令和3年度に比べ、国語で4.8%減少した。数学は17.1%増えてしまったが、チャレンジテストでは府平均を上回っていることを考えると、基礎基本の徹底により効果があがっているととらえられる。各学年で行っている取り組み(100問テストなど)を継続していきたい。
- 令和5年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル(大阪市基準 トータル440点以上)相当以上の英語力を有する生徒の割合は令和5年度で45.4%であった。昨年度の31.5%に比べると大幅にアップしており目標の40%以上に到達している。C-NET の活用も含めこれまでの取り組みを継続していく。
- 令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、R5男子48.6%、女子32.8%と昨年度に比べ、男子は7.8%、女子は2.9%下がった。校内調査では50%を超えてるので学年のばらつきがあるかもしれないが、体育の授業でも子ども主体の授業を行うなど工夫をしてくれているので、今後の成果に期待したい。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合は令和5年度調査で「朝食」87.8%、「寝ている」81.4%、「起きている」89.3%でいずれも目標の70%を上回っている。落ち着いた学習環境にもつながることなので、啓発を続けていく。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 日々の学校活動の中で学習者用端末活用が進んでいる。心の天気の入力だけでなく、端末を使っての授業も増えてきている。現時点では教師側の提示がメインであるので、端末のスペックの問題もあるが、生徒が自分たちで使う場面を増やしていきたい。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は84.6%であった。休みを取りやすい雰囲気は十分にできあがっていると考えられる。

学校園の年度目標

- 読書に関しては、元気アップさんやボランティアさんのおかげで、ほぼ毎日放課後の図書館の開館ができることがよい影響を与えている。昼休みは文化委員が中心となって開館してくれており、まずは読書する環境づくりとしてこのまま取り組みを継続していきたい。
- 学校が家庭・地域との連携を密にとっているかについては昨年度よりも保護者の評価が5~6%ほどさがったしまった。地域と共に催す行事がなく、PTA 実行委員会との協力ぐらいしかできていない。HP での情報発信は各学年で担当を決めており、昨年度以上に更新してくれているので、そこを生かしつつ地域との連携を深めていきたい。

(様式 2)

大阪市立加賀屋中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を85%以上にする。</u> 1学期末調査で77%であったが、2学期末調査では82.7%となり目標に近づいた。しかし、いまだ目標の85%には届いていない。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 昨年度は4.48 今年度1学期末時点で欠席が10日以上在籍比率は6.14で目標を下回る。 2学期末時点で欠席日数30日以上のうち不登校とされるのは、1年生9名、2年生15名、3年生22名である。在籍比率は10.02となり、1学期末よりも増えている。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 昨年度は0名 今年度1学期末時点で6名が、2学期末で11名が別室登校できるようになるなど改善されたので目標どおり。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和5年度末の保護者アンケートにおける学校の教育目標「(人権教育を基盤とし、生徒一人ひとりを大切にする教育実践を通して、互いに認め合い、自己実現のための学ぶ力を育む教育を推進する)」について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と肯定的に答える保護者の割合を75%以上にする。1学期末調査において86%、2学期末調査において82%とともに目標を上回った。</p> <p>○令和5年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を80%以上にする。</u> 令和5年度の調査で93.6%となり、目標を上回った</p> <p>○令和5年度の校内調査の「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。 1学期末調査での肯定的回答が96%、2学期末調査での肯定的回答が97.7%とともに目標を上回った。</p> <p>○令和5年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>	B

令和5年度の調査で60% 前年度は62.5%で2.5%下回った

○令和5年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。

1学期末調査で96.7%、2学期末調査で94.8%だった。昨年度は96.0%なので2学期末の段階で少し目標を下回ってしまった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。

1学期末調査で47%、2学期末調査で48.2%と目標を上回った。

○中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

1,2年のチャレンジテスト結果がまだ届いていないため検証できないが、3年生については、平均点の対府比で国語がR3 0.98、R4 0.95、R5 1.01、数学がR3 1.03、R4 1.01、R5 1.04となった。いずれも2年時に少し下がってしまったが、3年間の結果としては2年前を上回り、しかも府平均を超える結果となった。十分に目標を上回ることができた。

○大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。

令和5年度は64.6%であった。昨年度の79%に比べると下がっているものの目標の40%以上には到達している。

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を50%以上にする。

1学期末の調査で55%2学期末の調査で52.5%と目標を上回った。

学校園の年度目標

○令和5年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率3割以下の生徒を、令和3年度より1ポイント減少させる。

令和5年度は国語で17.3%、数学で34.8%、英語で52.1%であった。令和3年度は国語で22.1%、数学で17.7%、英語は調査がなかった 国語は上回ったが数学は下回っている

○令和5年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。

令和5年度は64.6%であった。昨年度の79%に比べると下がっているものの目標の40%以上には到達している。

○令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を、前年度以上にする。

令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポー

ツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答えた生徒の割合は男子48.6%、女子32.8%であった。前年度が男子56.4%、女子35.7%であったので目標には達しなかった。　※R3男子71.4%女子26.6%

○規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和5年度調査において、70%以上にする。

令和5年度調査で「朝食」87.8%、「寝ている」81.4%、「起きている」89.3%でいずれも目標を上回った

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

○令和5年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、前年度より増加させる。

1学期末の調査では93.3%だったが2学期末の調査では76.9%になった。それでも前年度の73.9%を上回った。

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

今年度は教職員42名中(3名が育休中なので実質39名中)33名が年休を10日以上取得した。取得率は84.6%となり、目標を上回った。

学校園の年度目標

○令和5年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。

1学期末の調査での肯定的回は55%、2学期末調査では60.5%で前年度54.4%を上回った。

○令和5年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より1ポイント増加させる。

1学期末の調査で87%、2学期末の調査で84%であり前年度を下回った。※令和4年度は90%

【生活指導部】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○年間を通しての「予鈴後登校」を減少させ、時間を守る意識を養う。	C
指標	

<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての「予鈴後登校」を前年度より減少させる。 ・学期に一度、生活指導強化集会を通して規範意識を持たせるように働きかける。 ・生徒会や委員会活動を活性化し、生徒自ら啓発し合えるような働きかけをする。 ・令和5年度の生徒アンケートにおける「時間やルールを守って学校生活を送っている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○集会やあいさつ運動を通して、自ら進んで元気よくあいさつをする生徒を育てる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の生徒アンケートにおける「自ら進んであいさつ、返事をしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・生徒会や委員会活動を活性化し、生徒自ら啓発し合えるような働きかけをする。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○班活動や学級活動、学年行事や学校行事等を通して仲間づくりを行い、安全で安心できる学校、教育環境の実現を行う。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の生徒アンケートにおける「いじめを許さない」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。 ・令和5年度の生徒アンケートにおける「丁寧な言葉遣いと素直な態度で人の話を聞いている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・令和5年度の生徒アンケートにおける「学年・学級で協力することができる」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>① 予鈴後登校について</p> <p>5~9月現在 10~1月末</p> <p>1年生:36回 2年生:126回 3年生:451回</p> <p>1年生:15回 2年生:120回 3年生:245回</p> <p>各学年昨年度後期と比較し、2年生は68回増、3年生は74回増、1年生に関しては今年度前期より、21回減であった。また、昨年度の年間と比較すると、2年生は104回増、3年生は288回増。昨年度全体では672回に対し、今年度は993回であり、321回増という結果になってしまった。</p> <p>「時間やルールを守って学校生活を送っている」</p> <p>1学期:96.1% 2学期:97.7%</p> <p>② 「自ら進んであいさつ、返事をしている」</p> <p>1学期:94.4% 2学期:94.8%</p> <p>③ 「いじめを許さない」</p>	

1学期:95.7% 2学期:92.8%

「丁寧な言葉遣いと素直な態度で人の話を聞いている」

1学期:88.7% 2学期:92.5%

「学年・学級で協力することができる」

1学期:95% 2学期:94.8%

- ① 予鈴後登校については、昨年度より大きく増加してしまっている状況であり、今後全体及び各学年での子どもたちへの呼びかけ働きかけを工夫し、少しでも改善できるよう図る。
③のそれぞれの項目について、指標を上回っており、継続及び向上するよう指導を続けていく。

次年度への改善点

① 予鈴後登校について

・学年が上がるにつれ、時間に関わる意識が低下している傾向にある。遅刻が常習しないよう、家庭の協力も得ながら指導に当たる必要がある。

・「時間やルールを守って学校生活を送っている」

数値としては1学期を上回り、改善が見られる。しかし、休み時間の時間は守れても、登校時間を守ることが厳しい現状である。今後も依然として指導を継続していく必要があり、正しく学校生活が送れるよう、小さなことからしっかりと向き合っていく必要がある。また、生徒自身で互いに注意し合う関係作りも必要である。

② 「自ら進んであいさつ、返事をしている」

1、2学期ともに指標を上回った。今後も継続的にあいさつ、返事の習慣化を身につけさせていく。

③ 「いじめを許さない」

1、2学期ともに指標をした回る結果となった。各学年でのいじめ防止に向けた取り組み、道徳心を養う取り組みを活性化させ、互いを思いやり、認め合う集団作り、また個人の人間力を育む関係作りを行っていく。

「丁寧な言葉遣いと素直な態度で人の話を聞いている」と「学年・学級で協力することができる」については1、2学期ともに指標を上回った。互いに協力すること、何かのために一生懸命になること、また言葉遣いや、素直な態度は生きていくうえで必要不可欠のことでもあり、今後も継続的に指導を続けていく。

【健康教育部】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○緊急体制における教職員の連携を強化し、安全に留意した生活態度を育成する。	
指標 ・食物アレルギー対応研修会・救命講習会を実施し、事後アンケートで肯定的な回答を 80%以上にする。 ・職員会議等で、健康上の課題を有する生徒に関する報告を2回以上行い、教職員間の共有認識	A

を図り、安全に留意した生活態度を育成する。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○生徒保健委員会活動において、感染症の予防に留意した健康啓発活動を行い、健康推進リーダーとしての自己有用感を育成する。	B
指標 ・活動後にアンケートを実施し、自己有用感を問う項目において、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○生徒美化委員会活動において、感染症の予防に留意した美化活動を行い、美化推進リーダーとしての自己有用感を育成する。	B
指標 ・活動後にアンケートを実施し、自己有用感を問う項目において、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>① 食物アレルギー対応研修会・救命講習会を実施し、事後アンケートにおいて「内容が理解できたか」「充実していたか」「組織連携に役立つか」という質問に対し、参加者全員から肯定的な回答を得ることができた。また、職員会議で健康上の課題を有する生徒に関する報告を2回以上行い、教職員間で情報の共有を図り、安全に留意した生活態度の育成に寄与することができた。</p> <p>② 生徒保健委員会活動において、保健委員が、月例活動に加えて、文化発表会では『電子メディアにおける睡眠への影響』についてムービーを作成し、啓発活動に取り組むことができた。その結果、事後のアンケートでは、「クラスの人の役に立った」などの自己有用感に関する6項目全てにおいて、95%～100%で肯定的な回答しており、生徒の自己有用感を育成することができた。</p> <p>③ 生徒保健委員会活動において、美化委員の月例活動に加えて、加賀屋中学校の周りの清掃活動に積極的に取り組んだ。その結果、「美化への意識向上」などの自己有用感に関する4項目全てにおいて、85%～100%で肯定的な回答しており、生徒の自己有用感を育成することができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>○今年度から感染症法上、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられて、感染予防への意識が変化し、新型コロナウイルスとインフルエンザの罹患する生徒が増えており、継続的な予防対策を講じる必要がある。</p> <p>○保健委員会、美化委員会ともに、目標としている指標を上回ることができた。来年度も、生徒主体で行える活動を通じて、自己有用感を高めていく。</p>	

【特別支援教育推進委員会】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○生徒の実態を把握し、安全な学校生活を送れるように教職員の共通理解を深め、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制を充実させる。	B
指標 ・研修会の実施と、学期に1回の推進委員会及び各月の学年会で情報共有を密に行う。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○校内の行事や学級活動に積極的に参加し、共に学び・共に育ち合う交流や共同学習を推進し、好ましい人間関係を構築する。	B
指標 ・学校全体の行事や学年ごとの行事に参加するとともに、共同学習を保障する。	
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ○家庭及び関係諸機関との連携を図り、障がいの内容・程度をより理解し、支援を充実させる。	B
指標 ・日々の家庭との連絡帳の実施と、関係諸機関との情報交換の場を年1回以上設ける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 <ol style="list-style-type: none"> ① 全体への研修会は資料のみの実施にとどまっているが、学年会及び職員会議にて情報の共有や対応についての検討を行うことができた。 ② ほとんどの在籍生徒が行事や学級活動に参加できた。参加が困難な生徒に関しても、見学をしたり、参加不参加を計画したりと、能動的に行事や学級と関わる機会を作ることができた。 ③ 毎日の家庭との連絡は連絡帳や電話を使って密に取ることができた。関係諸機関との連携は適宜おこなっており、今年度から保育所等訪問支援なども活用することができた。 	
次年度への改善点	
○保護者および本人との「自立活動面談」を設定し、自立活動の目標を定めるよう取り組む。 ○「個別の支援計画・指導計画」について学期ごとに見直し及び評価を実施し、生徒一人ひとりの支援体制を充実させる。 ○保育所等訪問支援を利用する生徒が増えるので、関係機関との連携を密に行う。また、通級指導教室の運用について担当者と連携を取り推し進めていく。	

【特別活動・キャリア教育委員会】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○校外学習や外部講師を招いたキャリア教育を各学年で実施する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業などを通してキャリア教育を進める。 ・出前授業などのキャリア教育を全学年で実施する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○特活・キャリア教育の年間指導計画に沿って、学年と連携を密にし、実施していく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習後のアンケート調査で、「よかったです」と答える生徒を各学年80%以上にする。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○3年後の進路を見据えた基礎学力の定着を図るための取り組みを実施していく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を各学年で年間を通して実施し、定期テストにおける5教科平均3割未満の生徒の割合を20%未満にする。 ・長期休業中に学力向上のための補充授業を各学年で実施する。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○学習形態も含めた授業改善により、基礎・基本の定着に取り組み、学力補充を充実させ、自ら学ぶ姿勢を育む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の中学生チャレンジテストにおける校内平均点を同一の母集団で比較し、前年度より向上させる。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>①3年生は2学期に高校出前授業と面接講習会を施し、進路実現に向けた取り組みを実施できている。2年生は2学期から職業調べや職業新聞の作成を実施している。1年生は3学期に自己分析のためのSPランプセミナーを実施予定である。</p> <p>③朝学習については各学年において取り組みが行われている。夏季休業中についても各学年において補習が行われた。定期テストにおいては30点未満の生徒は1学期期末テストにおいては約14%になっており、指標を達成している状況である。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

○昨年度に引き続き、学習支援の取り組みを充実することによって基礎学力に課題のある生徒に向けた取り組みを継続し、数値の向上に努めていきたい。

【道徳・人権委員会】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○支援を要する子どもの理解など、教職員の人権意識を高めるための研修会を実施する。	B
指標 ・全教職員を対象とする人権教育研修会を、年に1回実施する。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○人権教育の年間指導計画に沿って、学年との連携を密にし、実施する。	C
指標 ・月に1回、道徳人権委員会で指導案の精選を行いながら研修を進める。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○道徳教育の年間指導計画に沿って、生徒の実情に沿った教材を精選し、実践する。	C
指標 ・道徳の授業の振り返りから月に1回、指導案の精選を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組の進捗状況】

- ① 5月24日に人権研修会を行い、支援を要する子どもの理解に努めた。
 - ② 人権教育の指導案の精選を予定通りに進めている。また性教育や人権の問題に対する取組を行うなど、多種多様な問題に取り組んでいる。一方で、各学年ごとに活動を行ってきたが、他学年との共同で進めていくことが少なかった。
 - ③ 学年により、課題はあるが前向きに取り組もうと考えている。
- また、道徳科の授業に加えて、他教科の授業内容や特別活動、総合、学級活動の中で道徳教育を行ってきた。

次年度への改善点

- ① 次年度は研修会の時期を早めるほか、海外にルーツのある生徒の把握も進め、加賀屋中学校全体の人権意識をさらに高める必要がある。
- ② 今後は他学年との連携をさらに深め、外部団体の利用も視野に入れたうえで、各学年に応じた取り組みを精選し、体系化していく必要がある。
- ③ 道徳人権委員会で、各学年で行った授業、指導案を共有し、道徳の授業の実践により生かしていく。また、研究会や研修で得た内容を周知する際に各学年の道徳・人権委員会と連携を密にし、道徳の授業の充実を図る必要がある。

【第1学年】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○集団における規律を学ばせ、実践できる子どもを育てる。		
指標	・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学校のルールを守った」という項目において肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○自他ともに認め、尊重しあえる集団作りを目指す。		
指標	・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学年・学級の友達と協力した」という項目において肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○教科と連携し、基礎基本を定着させる		
指標	・基礎学力を定着させるため、朝学習、定期テスト前や長期休業中の補充学習を実施する。 ・定期テストにおける5教科合計の得点率が3割未満の生徒の割合を20%以下にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組の進捗状況の結果と分析】		
①2学期に実施した生徒アンケートでは「学校の決まり・規則(ルール)を守っている」の項目に肯定的に答える生徒の割合が99.1%となり、1学期に実施したアンケート(94.5%)より数値は向上した。しかし服装など学校のルールを守っていない生徒も散見されるため、引き続き指導を行っていかなければならない状況は変わらない。		
②2学期に実施した生徒アンケートでは「学年・学級の友だちと協力することができた」の項目に肯定的に答える生徒の割合が92.7%で、1学期のアンケート結果(97.2%)を下回ってしまった。体育大会や文化発表会などの大きな行事があったので残念だが、次年度以降の課題としたい。		
③2学期の期末テストでは5教科合計の得点率が3割未満の生徒の割合は16.5%であった。授業のほかに、家庭学習だけでなく、朝学習やテスト前の自主学習、長期休業中の補充学習などを活用し、基礎学力の定着を目指したい。		
次年度への改善点		
○安心安全な環境の中で、基礎基本学力の定着を主眼として学力の向上を図るとともに、自他ともに認め、尊重しあえる集団の育成を目指すという目標を、生徒・学年教職員で共有し、同じ想い		

をもって様々な活動に取り組むようにしたい。

【第2学年】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○集団における規律を学ばせ、実践できる子どもを育てる。	B
指標 ・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学校のルールを守った」という項目に肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○自他ともに認め、尊重しあえる集団作りを目指す。	B
指標 ・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学年・学級の友達と協力した」という項目に肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。	B
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○教科と連携し、基礎基本の定着をめざす。	B
指標 ・基礎学力の定着を図るため、集会を行わない日の朝学活の時間帯に朝学習を実施する。 ・定期テストにおける5教科の達成率3割未満の生徒の割合を30%未満にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】	
①「学校のルールを守った」という項目に肯定的に答える生徒の割合は1学期93.9%、2学期94.8%と指標を上回ることができた。しかしながらルールを守れない生徒が複数いる現状もあり、今後も指導をつづけていく。	
②「学年・学級の友達と協力した」という項目に肯定的に答える生徒の割合を1・2学期とも92.8%、を上回ることができた。これからも協力できる学年づくりを心がけて、指導していく。	
③朝学習の実施を行い、定期テストの5教科の達成率3割未満の生徒の割合は1学期が14.2%、2学期が13.3%と目標を達成することができたので継続して指導したい。	
次年度への改善点	
○全体的にルールを守ることのできる生徒は多いが、一部ルールを守れない生徒がいる現状である、学習面でも目標は達成できたが、来年度の進路実現のためにも、これまで以上に学習面に主体的に取り組ませるとともに、3年生としての自覚をもって学校生活を送れるように努めたい。	

【第3学年】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○集団における規律を学ばせ、実践できる子どもを育てる。		
指標 ・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学校のルールを守った」という項目に肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。		B
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○自他ともに認め、尊重しあえる集団つくりを目指す。		A
指標 ・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学年・学級の友達と協力した」という項目に肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。		
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○教科と連携し、基礎基本を定着させる。		
指標 ・基礎学力の定着を図るため、集会を行わない日の朝学活の時間帯に朝学習を実施する。 ・定期テストにおける5教科の達成率3割未満の生徒の割合を3分の1以下にする。 ・定期テスト前や長期休業中等に補充学習を行う。		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組の進捗状況】		
<p>① 生徒アンケートでは「学校の決まり・規則(ルール)を守っている」の項目に肯定的に答える生徒の割合が1学期は99.1%、2学期は99.0%ではあったが、学校のルールを守っていない生徒も継続してみられるため、引き続き指導を行っていかなければならない。</p> <p>② 生徒アンケートでは「学年・学級の友だちと協力することができた」の項目に肯定的に答える生徒の割合が1学期は95.0%、2学期は99.0%であった。年間を通して協力することの大切さを伝えることができた。</p> <p>③ 1学期の期末テストでは5教科合計の得点率が3割未満の生徒の割合が15.9%、2学期の期末テストでは17.3%とわずかに目標を達成できなかった。今後もより、学力の定着を図るために自習の時間を増やすなど、工夫していく必要がある。</p>		
次年度への改善点		
・ルールを守ることができる生徒や協力できる生徒は多い中、基礎学力においてまだまだ課題が多い生徒が多くかった。3年生のため、次年度に教えることはできないが、今後もより、学力の定着を図るために自習の時間を増やすなど、工夫していく必要がある。		

【国語科】

	進捗 状況
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○授業内容を精選し、基礎学力の定着と国語を適切に表現する力を育成する。	A
指標 ・授業で出されたプリントや問題集などの課題提出率を 80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○各单元でのねらいを明示し、アクティブラーニングを行い、国語への興味・関心を高める。	B
指標 ・校内授業アンケートを各学期に行い、「授業がわかる」と肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ① 1年 A 2年 A 3年 B 3年生のみ提出率75%程度ではあったが1、2年生は80%を超え、おおむね達成している。	
② アクティブラーニングについて 1年 B 2年 B 3年 B 授業理解度80%以上 1年 A 2年 A 3年 A 全学年において、授業がわかると肯定的に答えた生徒は80%を超えており、アクティブラーニングに関しては取り組めていない部分が多く、課題が残る。	
次年度への改善点	
漢字や語彙を増やすための手立てを、ルーティンとして取り入れて定着を図っているが、次年度以降も継続して行うことで、国語で学んだことを適切に使い表現する力を育成する。 主体的に学ぶ姿勢や、自分で考える力を育むため、アクティブラーニングをはじめとした、興味関心を引く授業内容を提案しつづける。	

【社会科】

	進捗 状況
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○基礎学力の定着を図るため、復習プリントを配布する。	B
指標	

・復習プリントの未提出率を25%以下にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○定期テスト前の課題プリントを配布する。	
指標 ・定期テストにおける正答率6割以上の生徒の割合を1／3以上にする。 ・テスト前に課題プリントを2枚以上配布する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 取組内容①について、達成している。 取組内容②について、達成している。	
次年度への改善点	
○取組内容①②の指標については達成することができた。授業アンケートの結果についても、「わかる」「意欲」の観点は1,2学期の平均でそれぞれ80%を超えており、これらの指標やアンケートの結果から、基礎的な学力の定着が十分であるということではないので、学力に課題のある生徒の学力向上に向けて、引き続き、授業改善や生徒にあった課題の提供を行う必要がある。	

【数学科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○授業形態を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	
指標 ・定期テストにおける正答率3割未満の生徒の割合を25%以下にする。 ・生徒アンケートにおける「授業がわかる」と肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○宿題や確認プリント(家庭用)を利用し、家庭学習の定着をはかる。	
指標 ・宿題や確認プリントを週1回以上行う。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ① 授業形態を工夫し、基礎・基本の定着を図る ・2学期期末テストにおける正答率3割未満の生徒の割合が、全学年で16.5%であった。 →指標とした数値は全体では達成したが、学年単位では達成していない。	

・2学期末に行った生徒アンケート「学習内容の習得」における肯定的に回答する生徒の割合が、全学年で89.6%であった。
→指標とした数値は達成した。

②宿題や確認プリント(家庭用)を利用し、家庭学習の定着をはかる。

・宿題や確認プリントを全学年、週1回以上行った。

→指標とした数値は達成した。

次年度への改善点

○アクティブラーニングやICTを授業に取り組み、より興味が惹きつけ、関心意欲を高め、学習意欲向上を目指す。

【理科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○理科教育の充実のため、学習内容について、身近なことを通して興味・関心を高める。	B
指標 ・令和5年度の校内調査において、「授業がわかる」「授業が楽しい」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を7割以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○全学年で週に1回、復習問題を行う時間を設け、練習問題等により基礎・基本の定着を図る。	B
指標 ・定期テストにおける正答率3割未満の生徒の割合を20%以下にする。	B
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○学習内容を工夫し、実験・観察を通して興味・関心を高める。	B
指標 ・令和5年度の生徒調査における「実験・観察に積極的に取り組むことができた」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を8割以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

【取組の進捗状況】

①①・③について、1学期に実施したアンケートの結果では、「わかる」が87.1%で、「意欲」が85.1%であった。ともに80%を超えており、引き続き、学習内容に工夫し、生徒の興味・関心を高める授業をすすめていく。

②について、定期テストにおける正答率3割未満の生徒の割合が、1学期期末で16.9%であった。引き続き、3割未満の生徒の割合を低くできるよう学習指導をすすめていく。

次年度への改善点
○いずれの指標においても目標を達成できているが、まだまだ改善しなければいけない部分があり引き続き、学習内容に工夫し、3割未満の生徒の割合を低くできるよう学習指導をすすめていく。

【音楽科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 生涯学習の支援】 ○歌うこと、演奏することの喜びや楽しみを実感させ、音楽への興味関心を高める。	
指標 ・令和5年度の授業アンケートにおける「興味・関心・意欲」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を75%以上にする。	A
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○楽譜の読み方や楽器の構造、作曲者の歴史など音楽の基礎的な知識を定着させるとともに、音楽を感受し表現する力を養う。 ○歌うこと、楽器を演奏することの基本的な能力を身に着ける。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組の進捗状況】
<p>① 授業アンケートにおける、音楽の授業に肯定的回答 80%以上を目指していきたい。</p> <p>コロナでのびのびと歌ってこなかった分、これから1年生は合唱コンクールに取り組むことにより、歌うこと、クラス全員で合唱することへの興味・関心・意欲をもっと引き出していくよう努めたい。</p> <p>2年生もこの学年の持つ歌う能力の高さをもっと伸ばしていきたい。</p> <p>3年生は卒業式での歌を歌いこみ、中学校音楽生活の集大成としたい。</p> <p>② 音楽を音だけでなく映像、歴史、文学、多方面から読み解いて音楽の視野を広げられるよう、実技の試験は取り組みやすい選曲も含めて考えていきたい。</p>
次年度への改善点

○コロナ禍が一定の収束を見る中、次年度も合唱をのびのびと取り組みより一層音楽の楽しさをクラス単位、学年単位、学校単位で取り組むことができたらと思う。
○鑑賞を通じて様々な表現力、語彙力を身につけて、今後の音楽鑑賞も豊かなものにしていけたらと思う。

【美術科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○美術への興味・関心を高め、創造活動や鑑賞の面白さ・楽しさを実感できるよう授業を工夫する。</p>	
<p>指標</p> <p>○美術への興味・関心を高め、創造活動や鑑賞の面白さ・楽しさを実感できるよう授業を工夫する。</p> <p>○令和5年度の授業アンケートにおける「作品制作が楽しい」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○作品制作や鑑賞を通じて、豊かな情操を育む。課題や作品に対して粘り強く取り組む姿勢を養う。</p>	
<p>指標</p> <p>・令和5年度の授業アンケートにおける「作品をより良いものにしようとしている」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>【前期】</p> <p>① 授業アンケートにおける「作品制作が楽しい」の項目において肯定的な回答をする割合が、1年生は92%、2年生91%、3年生83%という結果になった。 3年生がギリギリだが全学年通して数値目標を達成している。後期は3年生も上げられるように頑張りたい。</p> <p>② 授業アンケートにおける「作品をより良いものにしようとしている」の項目において、肯定的な回答をする割合が、1年生は91%、2年生87%、3年生93%という結果になった。 全学年数値目標を超えることができた。しかし、2年生の創作意欲が若干下がっている結果となつたため、後期は制作への興味関心を高めていけるよう努力したい。</p> <p>【後期】</p> <p>① 授業アンケートにおける「作品制作が楽しい」の項目において肯定的な回答をする割合が、1年生は94%、2年生95%、3年生98%という結果になった。 3学年共に前期よりも割合を上げることができた。</p> <p>② 授業アンケートにおける「作品をより良いものにしようとしている」の項目において、肯定的な回答をする割合が、1年生は91%、2年生92%、3年生100%という結果になった。 2・3年生は前期よりも割合を上げることができた。1年生の割合が前期と同じになった。</p>	
次年度への改善点	

○全学年数値目標を超えることができ、2・3年生は割合を上げることができた。しかし、取組内容②の1年生の割合が前期と同じ結果になった。来年度は1年生の授業改善を図っていきたい。

【保健体育科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ○視覚的教材を利用し、保健体育への興味・関心を高める。		B
指標 ・ICTを活用した授業を各学年の保健・体育の授業で活用し、校内調査における授業の内容に興味・関心・意欲をもつようになったと回答する生徒の割合を85%以上にする。		
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○T・Tを活用し、習熟度別に課題を設定することにより体力、技能を向上させる。 ○ダンスの授業で、プロの外部講師を招き、生徒の興味関心を引きながら本格的なダンスの指導を行う。		B
指標 ・生徒アンケートにおいて、ダンスの授業が「楽しかった」「仲間と協力して取り組めた」と肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】		
①実技では、ICTを使用できる種目においては積極的に活用している。今後も使い方を検討しながら、年度終わりに生徒アンケートを行う予定である。保健の授業でも映像などを使いながら、視覚的教材として使用することができている。		
②水泳の授業ではT・Tを活用し、習熟度別に対応できる場面も多く作ることができた。 行事の取り組みが終わり、今後種目に取り組む際に、積極的に場面を作っていく。 ダンスに関しては、発表会の集計後、最終反省にて示す。		
次年度への改善点		
①年度末の授業アンケートにおいて、ICTを使用し理解をより深めることができたという項目において、そう思う、大いに思うと答えた生徒が86.7%となり指標を上回った。保健の授業で活用したり、生徒自身が自分の技や動作を撮影し振り返りを行うために使用したりすることが多いが、今年度は撮影した動画を提出するなど様々な使い方にチャレンジできた。しかし、起動や撮影に費やす時間が多くなるにつれ運動量の確保が難しくなることもあり、今後は、運動量の確保も行いながらICTを幅広く活用できる方法を検討し、実践していきたい。		
②ダンスの授業が楽しかった、仲間と協力して取り組めたと答えた生徒は全学年で95.3%であった。体育		

大会と同様に生徒たちが前向きに取り組み、楽しいと思える行事の一つであり、今後も引き続き継続していきたい。また、習熟度別の課題解決に関しては、男女ともに可能な種目の中より一層 T・T を活用し、生徒の体力、技術の向上を図り、授業理解を深めていきたい。

【技術・家庭科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ○ものづくりに対する関心・意欲を高め、ものを作る楽しさを実感できる実習を行う。	A
指標 ・令和5年度の授業アンケートにおける「興味・関心・意欲」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○規律ある学習態度を身に着け、安全に教材・教具を扱い、怪我なく実習を行う。	B
指標 ・令和5年度の授業アンケートにおける「個の状況に応じた支援」「望ましい学習集団の育成」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】	
<p>① 「ものづくりに対する関心・意欲を高め、ものを作る楽しさを実感できる実習を行う。」では、実際に道具に触れて使い方を考えたり、映像などで視覚的にも体験できるように心がけた。指標としている授業アンケートの「興味・関心・意欲」の項目において肯定的な意見が 86%となっている。実体験につなげたり、实物を提示することで興味関心を持ち授業に望むことができていると考える。</p> <p>② 「規律ある学習態度を身につけ、安全に教材・教具を扱い、怪我なく実習を行う。」では、個人とグループでの取り組みにおいて互いに助け合うことや、道具を使用する際に不安を抱く生徒に対して個別の支援を行うことにより取り組み方を自ら考え方行動に移すことができる生徒が多くなった反面、授業の内容とは無関係な発言をする生徒もいた。</p>	
次年度への改善点	
<p>○授業アンケートの結果を踏まえ、より生徒が興味関心を持てるように实物やタイムリーな話題、教科をまたぐ話を織り交ぜることが必要だと考える。</p> <p>○デジタルとアナログを効果的に織り交ぜることでより生徒が学習しやすい授業作りが必要であると考える。</p>	

【英語科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○家庭学習を充実させ、基礎・基本の定着を図る。	A
指標 ・家庭学習課題の達成率 75%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○授業形態を工夫し、基礎・基本の定着を図る。また、定期的に小テストを行い、学習の定着を図る。	A
指標 ・定期テストにおける平均正答 2割未満の生徒の割合を、いずれの学年も 15%以下にする。	
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ○C-NET を活用し、英語で積極的にコミュニケーションを取る態度を養う。	B
指標 ・パフォーマンステスト(リーディング、スピーキングなど)を行い、達成率を6割以上となるようにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】	
<p>① 家庭学習課題の提出率は、1年生 90%、2年生 89%、3年生 87%となり、全体では約 88%となり、目標を達成することができた。</p> <p>② 定期テストにおける平均正答2割未満の生徒の割合は、2学期期末テストでは 1年生 12.2%、2年生 12.5%、3年生 14.2%となり、全体では 12.9%となり、いずれの学年において目標を達成することができた。小テストも定期的に行うことで勉強の習慣をつけ、知識の定着を図った。</p> <p>③ 2, 3年生において C-NET の授業を実施し、活用することができた。パフォーマンステストの達成率は2年生 86%、3年生 84%となり、全体では、85%となり、目標を達成することができた。1年生は3月にパフォーマンステストを行う予定であるため、全学年の達成率は出すことができなかった。</p> <p>授業で C-NET を活用することで、積極的にコミュニケーションを取る態度が養成できた。</p>	
次年度への改善点	
<p>○家庭学習の提出率においては、前年度比でも上回ることができた。ただ、提出すること自体が目的になり、提出物の内容が充実していない生徒も見受けられるため、しっかりと自分の力で解くことで知識の定着が強く期待できると伝える必要があると感じた。</p> <p>○パフォーマンステストの実施では、各学年ともに高い達成率を持って実施することができた。C-NET を活用した授業の効果が出ていると思われる所以、次年度はより自然な英語に触れる機会を増やし、英語を</p>	

話したり書いたりすることへのハードルを下げていきたい。